

## 市町村の母子保健に携わる職種の稼働時間の 特徴に関する研究

研究報告者 郡司 篤晃<sup>1</sup>， 星 旦二<sup>1</sup>  
研究協力者 高野 陽<sup>1</sup>， 宮里 和子<sup>2</sup>， 金子 仁子<sup>1</sup>  
櫃本 真一<sup>3</sup>， 笹井 康典<sup>4</sup>， 岩永 俊博<sup>1</sup>， 前田 博明<sup>5</sup>  
北井 暁子<sup>6</sup>， 青山 正征<sup>7</sup>， 矢島 鉄也<sup>8</sup>， 中村 安秀<sup>9</sup>  
高村 寿子<sup>10</sup>， 田上 豊資<sup>11</sup>， 廣田 洋子<sup>12</sup>， 細川えみ子<sup>13</sup>  
辻村 信正<sup>14</sup>， 日高 良雄<sup>15</sup>， 名越 雅彦<sup>16</sup>， 長沢 脩一<sup>17</sup>  
明石 都美<sup>18</sup>， 阿彦 忠之<sup>19</sup>， 尾崎 米厚<sup>1</sup>， 中川芙美子<sup>1</sup>

要約：母子保健に関わる各職種の年間稼働時間の市町村別特徴を明らかにし、各職種の単位出生数当りの稼働時間を明らかにするために全国24保健所管内の129市町村に対し母子保健に関係する各職種の年間稼働時間を常勤職員と臨時職員の別に聞くアンケート調査を行い、19保健所管内の103市町村から回答があり、以下のような結果が得られた。

- 1) 各職種の総稼働時間における常勤稼働時間の割合により市町村を分類すると職種により特徴的な分布を示した。なかでも栄養士のようにほとんど常勤稼働時間でまかなっている市町村とほとんど非常勤稼働時間でまかなっている市町村と2極に分かれるような職種が市町村ごとの母子保健活動の特徴をよく表現するものとして注目される。
- 2) 市町村規模の調整方法として出生100人当りの稼働時間をみたが、市町村によりかなりのばらつきが認められた。
- 3) 保健所の出生100当りの全稼働時間と管轄市町村の出生100当りの全稼働時間の相関をみると保健所の全稼働時間がとびぬけて大きい2保健所を除くと有意の正の相関が認められた。これは市町村の稼働時間が多いところほど保健所の稼働時間も多い傾向があることを示している。
- 4) 単回帰式によって出生が100増えるといくら母子保健の全稼働時間および保健婦稼働時間を確保しないといけないかは算出でき妥当性も高いと考えられた。しかし、市町村単位の母子保健稼働実態を出生数、単位出生当りの稼働時間、常勤職員の稼働時間割合や地理的特徴などで分類することはできず、むしろ保健所管内ごとで各々一定の特徴をもつ傾向がありマンパワーの確保基準を全国一律に決定することは全稼働量や保健婦以外は困難であると考えられた。

見出し語：母子保健事業、マンパワー、稼働時間、市町村

- 
- 1 国立公衆衛生院 (The Institute of Public Health)
  - 2 順天堂医療短期大学
  - 3 愛媛県伊予保健所
  - 4 大阪府環境保健部
  - 5 滋賀県大津保健所
  - 6 愛知県衛生部
  - 7 埼玉県大宮市中心身障害総合センター
  - 8 福井県健康増進課
  - 9 外務省経済協力局
  - 10 自治医科大学看護短期大学
  - 11 高知県健康対策課
  - 12 葛飾区葛飾北保健所
  - 13 足立区中央本町保健相談所
  - 14 新潟県環境保健部
  - 15 宮崎県日南保健所
  - 16 広島県西保健所
  - 17 福島県白河保健所
  - 18 名古屋市北保健所
  - 19 山形大学医学部

## I. 緒言

母子保健活動は現在保健所と市町村の共同により展開されている。母子保健法ではその業務の大部分を都道府県の責任と位置づけてはいるが現実には市町村が主体的に行っているところもあり、保健所と市町村の協力の仕方はまちまちであるといわれている。それにともなって、専門職種をはじめとする関係職種の稼働量も保健所や市町村によってまちまちであると考えられる。しかし、その中にも母子保健の稼働時間を決定する法則性を見いだすことは市町村規模の変化にともなうマンパワーの確保や母子保健計画策定に必要なことである。前報では母子保健に関わる保健婦の稼働時間に関して19の保健所管内別に分析し、わが国の母子保健における保健婦の活動時間の実態を明らかにし単位出生当りの保健婦の必要稼働時間をもとめる回帰式を算出した。今回は、同じ保健所管内でも市町村により特色ある活動がなされていることが考えられるので母子保健に関する年間稼働量を保健婦のみならず各関係職種について常勤職員と非常勤職員に分けた市町村単位の情報を用いて分析した。そして保健所の各母子保健関係職種の稼働時間と全稼働時間に対する比率の実態や常勤、非常勤別にみた稼働時間の特徴を明らかにし母子保健政策におけるマンパワー確保のための基礎資料を提供することを本研究の目的とした。

## II. 対象および方法

### 1. 対象地域

調査対象地域は、保健所が管轄する全ての市町村でアンケート調査が可能と思われた保健所を、管内の人口規模を考慮して全国から24か所(129市町村)選んだ。その中で、アンケートが全数不備なく回収できたのは19保健所管内の103市町村であった。そのため分析対象はこの103市町村(21市、47町、25村)とした。

### 2. 調査項目

母子保健事業の稼働量を各職種の年間稼働時

間として算出した。調査した職種は、医師、栄養士、看護婦、言語療法士、歯科医師、歯科衛生士、事務職、助産婦、心理判定士、母子推進員、理学療法士、保健婦、その他であった。算出のために母子保健事業の各職種の稼働時間を5つの項目に分けて調査した。すなわち、各母子保健事業の実施、母子保健事業全体の実施、計画、評価、研修に費やした実務の稼働時間を常勤職員の稼働時間と非常勤職員の稼働時間とに分けて調査した。これらの稼働時間を各職種に対して合算したものを各職種の総稼働時間とした。全職種の稼働時間の合計を全稼働時間とした。調査した事業の実施年次は1988年度1年間である。

### 3. 集計分析

集計分析は、データベースⅢPLUS(アッシュェント社)とHALBAU(現代数学社)を用いた。

## III. 結果

### 1. 調査対象市町村の特性

対象103市町村の平均人口は36,741人であった。その範囲は1,382人の高知県土佐山村から350,262人の大阪府吹田市であった。出生数の平均値は392.6人で、その範囲は11人(高知県土佐山村)から3,986人(大阪府吹田市)であった(表1)。

### 2. 出生100人当りの母子保健関係職種の年間稼働時間

出生100当りの各職種の年間稼働時間を見ると保健婦が最も多く平均844.4時間であった。ついで母子推進員、事務職、看護婦、医師の順に多かった。各職種とも出生100当りの稼働時間の範囲は平均値と比べてかなり大きかった。103市町村の中で飛び抜けて出生100当りの稼働時間が多かった埼玉県大滝村を除くと平均値および範囲はかなり小さくなった(表2)。大滝村を含めると全職種の稼働時間の約3割が保健婦の稼働時間となるが大滝村を除くと全体の5割近くが

表1. 調査対象市町村

	平均値	標準偏差	範囲
人口	36,741.1	64,970.7	1,382-350,262
出生数	392.6	712.7	11- 3,986

表2. 対象103市町村の出生100当りの母子保健関係職種の年間稼働時間  
(\*印は大滝村のデータを除いた集計)

		平均値	標準偏差	範囲	平均値*	標準偏差*	範囲*
医師	常勤	22.4	80.9	0- 544	17.5	64.1	0- 543.5
	計	155.5	218.6	0- 1,775	151.9	216.6	0-1,774.8
栄養士	常勤	19.3	34.3	0- 177	19.5	34.5	0- 177.4
	計	42.7	56.3	0- 271	43.1	56.5	0- 271.0
看護婦	常勤	195.1	1,446.8	0-14,775	52.2	96.1	0- 445.5
	計	312.8	1,441.6	0-14,775	171.1	167.4	0-1,129.4
言語療法士	常勤	0	-	-	0	-	-
	計	0.3	1.8	0- 11	0.3	1.8	0- 11.4
歯科医	常勤	3.5	13.2	0- 98	3.3	13.1	0- 97.8
	計	20.4	25.7	0- 174	20.4	25.9	0- 173.7
歯科衛生士	常勤	24.7	48.9	0- 355	24.7	48.7	0- 354.5
	計	40.8	73.1	0- 573	41.0	73.4	0- 572.7
事務職	常勤	420.4	1,402.1	0-14,000	287.2	399.3	0-2,989.7
	計	433.5	1,400.6	0-14,000	300.5	398.4	0-2,989.7
助産婦	常勤	0.7	3.3	0- 22	0.7	3.3	0- 21.7
	計	84.4	183.8	0- 1,272	85.2	184.5	0-1,272.4
心理判定士	常勤	3.2	18.7	0- 138	3.3	18.8	0- 138.4
	計	8.3	26.6	0- 188	8.4	26.7	0- 188.0
母子推進員	常勤	435.0	4,249.3	0-43,344	14.3	79.1	0- 776.5
	計	602.9	4,252.3	0-43,344	183.9	417.5	0-3,595.7
理学療法士	常勤	1.4	14.4	0- 147	1.4	14.5	0- 147.1
	計	1.4	14.4	0- 147	1.4	14.5	0- 147.1
保健婦	常勤	790.9	872.0	0- 6,271	794.3	875.6	0-6,271.4
	計	844.4	871.5	103- 6,271	838.9	874.0	151.8-6,271.4
その他	常勤	39.2	98.4	0- 591	39.4	98.3	0- 591.3
	計	39.2	98.4	0- 591	39.4	98.3	0- 591.3
総計	常勤	1,916.8	7,130.3	168-73,144	1,218.5	1,055.7	167.7-6,328.6
	合計	2,586.8	7,227.6	206-74,119	1,885.5	1,446.8	206.2-8,308.7

表3. 対象103市町村の母子保健関係職種の年間稼働時間のうち常勤職員の占める割合(%)

(各職種の総稼働時間が0の市町村のデータを除く)  
(\*印は大滝村のデータを除いた集計)

	平均値	標準偏差	範囲	平均値*	標準偏差*	範囲*
医師	9.3	22.3	0-100	8.4	20.5	0-100
栄養士	46.6	46.0	0-100	46.6	46.0	0-100
看護婦	32.7	40.9	0-100	32.0	40.5	0-100
言語療法士	0	-	-	0	-	-
歯科医	10.9	28.8	0-100	9.9	27.4	0-100
歯科衛生士	56.6	20.9	0-100	56.0	20.3	0-100
事務職	88.9	25.7	0-100	88.7	25.8	0-100
助産婦	2.8	13.8	0-100	2.8	13.8	0-100
心理判定士	15.5	33.6	0-100	15.5	33.6	0-100
母子推進員	14.4	32.0	0-100	13.2	30.6	0-100
理学療法士	100.0	-	-	100.0	-	-
保健婦	91.6	17.0	0-100	92.2	16.0	0-100
総計	64.7	17.4	27.9-100	64.2	17.1	27.9-100

保健婦の稼働時間で占められていた。これを市町村毎にみると全職種の稼働時間に対する保健婦の稼働時間が80%以上の市町村が約85%と大半を占めていた。

次に出生100当りの全職種稼働時間合計の分布を見ると、最も多いのは1,000~1,499時間であった(図1)。常勤職員の出生100当りの稼働時間をみると最も多いのは400~599時間であったが、2,000時間以上の市町村もかなり認められた(図2)。

### 3. 総稼働時間に対する常勤職員の稼働時間が占める割合

各職種の総稼働時間に対する常勤職員の稼働時間の占める割合をみると、保健婦の平均91.6%が最も高く、ついで事務職、歯科衛生士、栄養士、看護婦の割合が高かった。一方、言語療法士、助産婦、医師、歯科医師はほとんど非常勤職員の稼働時間でまかなわれていた(表3)。

全職種の総稼働時間に対する常勤職員稼働時間の占める割合の分布を見ると50~69%の市町村が最も多く、この階級を中心に正規分布に近い分布を示した(図3)。これを稼働時間が多い5つの職種に分けてみると職種により特徴的な分布を示した。医師や看護婦はほとんどの市町村が0~9.9%しか常勤職員でまかなっていなかった(図4, 5)。逆に、事務職ではほとんどの市町村が常勤職員の稼働時間が総稼働時間のほとんどを占めていた(図6)。保健婦も常勤職員の稼働時間割合が高く、稼働時間の100%を常勤職員でまかなっている市町村数が60と多かった(図7)。また、栄養士は総稼働時間なし、常勤職員稼働時間割合0~9.9%、100%の3つに3割前後の市町村が大きく3つに分かれる特徴的な分布を示した(図8)。

### 4. 全稼働時間に対するいくつかの職種の稼働時間が占める割合とその職種の総稼働時間に対する常勤職員の稼働時間との関連

市町村ごとの全稼働時間に対する保健婦の稼働

時間が占める割合と各市町村の保健婦の総稼働時間に対する常勤稼働時間が占める割合を度数分布表をもとにそれぞれ3群づつに分類して両者の関連をみると(表4)、一定の関連は認められずこの2つの因子は互いに独立であることが示唆された。つぎに稼働時間が多い5つの職種(保健婦、看護婦、医師、事務職、母子推進員)について同様の検討を行うと、市町村ごとの全稼働時間に対する5職種の稼働時間が占める割合と5職種の総稼働時間に占める常勤職員稼働時間が占める割合の間にも関連は認められず、この2因子も互いに独立していることが示唆された(表5)。

### 5. 全稼働時間に対するいくつかの職種の稼働時間が占める割合とその職種の総稼働時間に対する常勤職員の稼働時間との組合せによる市町村の分類

上で述べた結果に基づき、市町村を9つに分類し保健所管内ごとの特徴を検討した。保健婦の稼働時間が全稼働時間に占める割合(保健婦稼働割合とする)と保健婦の常勤稼働時間が総稼働時間に占める割合(常勤割合とする)により分類した場合では、保健婦稼働割合が低く常勤割合が高い市町村が多いのは窪川保健所管内であった。保健婦稼働割合が中等度で常勤割合が高い市町村が多い保健所管内は本庄保健所、巻保健所と高知中央保健所であった。保健婦稼働割合が高く常勤割合が中等度なのは山形保健所管内の市町村に多かった。保健婦稼働割合と常勤割合が共に高い市町村が多いのは白河保健所、阿蘇保健所、日南保健所であった(表6)。

同様の検討を5職種についておこなうと、5職種の稼働時間が全稼働時間に占める割合(5職種稼働割合とする)が低く5職種の常勤稼働時間が総稼働時間に占める割合(常勤割合とする)も低いのは巻保健所管内の市町村に多かった。5職種稼働割合が低く常勤割合が中等度または高いのは川越保健所と高知中央保健所管内の市町村に多かった。5職種稼働割合が中等度

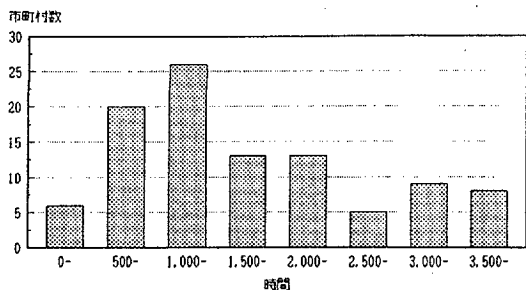


図1 出生100人当たりの全職種稼働時間合計別  
こみた市町村数

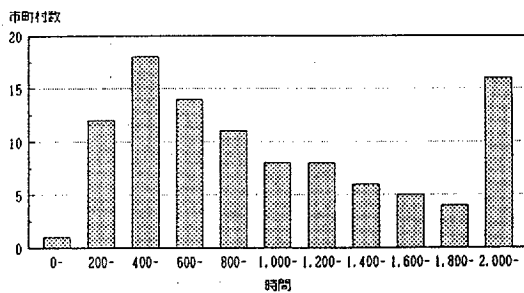


図2 出生100人当たりの全職種常勤職員の年間  
稼働時間別こみた市町村数

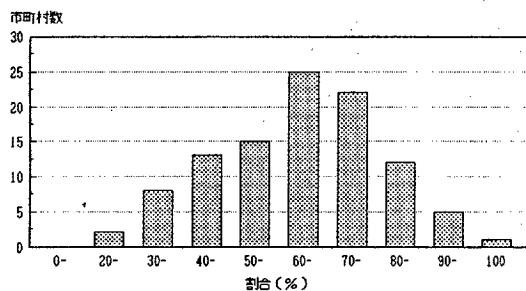


図3 全職種の総稼働時間に対する常勤稼働時間の  
割合別にこみた市町村数

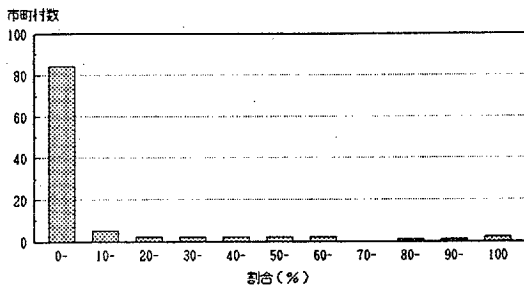


図4 医師総稼働時間における常勤職員稼働時間の  
割合別にこみた市町村数

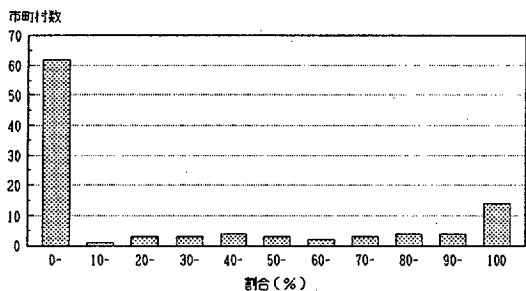


図5 看護婦総稼働時間に対する常勤稼働時間の  
割合別にこみた市町村数

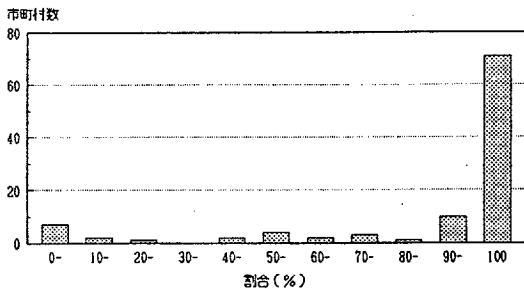


図6 事務職の総稼働時間に対する常勤稼働時間の  
割合別にこみた市町村数

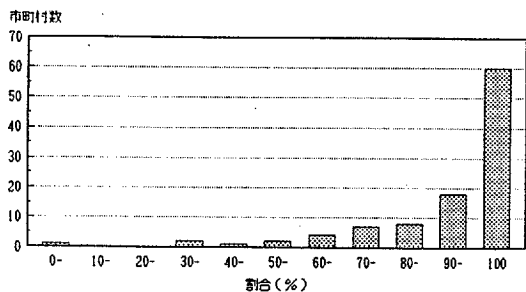


図7 保健婦の総稼働時間に対する常勤稼働時間の  
割合別にこみた市町村数

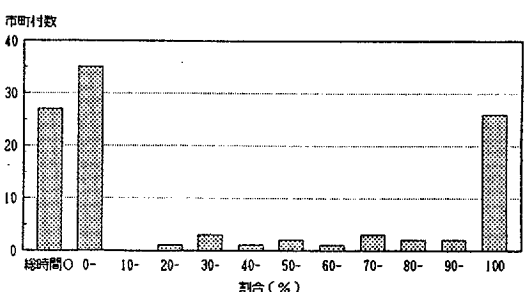


図8 農業者の総稼働時間に対する常勤稼働時間の  
割合別にこみた市町村数

表4 保健婦総稼働時間に対する常勤稼働時間の割合(A)と全職種総稼働時間に対する保健婦稼働時間の割合(B)との関連

保健婦稼働時間割合(B)				
	0~29%	30~49%	50%以上	合計
保健婦常勤時間割合(A)				
0~79%	5	7	5	17
80~99%	5	11	10	26
100%	10	27	23	60
合計	20	45	38	103

$\chi^2 = 1.45 \quad p = 0.83$

表5 5職種(保健婦、看護婦、医師、事務職、母子推進委員)の総稼働時間に対する常勤稼働時間の割合(A)と全職種総稼働時間に対する5職種の稼働時間の割合(B)との関連

5職種稼働時間割合(B)				
	0~79%	80~89%	90%以上	合計
5職種常勤時間割合(A)				
0~59%	8	7	11	26
60~79%	10	11	20	41
80%~	9	10	17	36
合計	27	28	48	103

$\chi^2 = 0.43 \quad p = 0.98$

表6 保健所管内別に保健婦の稼働時間が全稼働時間のうちに占める割合と保健婦稼働時間のうち常勤職員の稼働時間が占める割合による市町村の分類

	全稼働時間に占める保健婦の稼働時間			30~49%			50%以上			市町村数
	0~29%	30~49%	50%以上	0~79	80~99	100%	0~79	80~99	100%	
1. 山形保健所	0	0	0	0	0	0	1	3	1	5
2. 白河保健所	0	0	0	1	0	0	1	1	5	8
3. 小山保健所	0	0	1	0	1	1	0	1	0	4
4. 秩父保健所	3	1	1	1	1	1	0	1	1	9
5. 本庄保健所	0	0	0	0	3	3	0	0	2	6
6. 春日部保健所	0	0	0	1	2	0	0	1	0	4
7. 蕨保健所	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
8. 川越保健所	0	1	1	1	0	2	1	0	0	8
9. 巻保健所	1	1	3	1	3	3	0	0	0	12
10. 武生保健所	0	2	0	0	0	1	0	0	1	4
11. 大津保健所	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
12. 吹田保健所	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
13. 御荘保健所	0	0	0	1	0	2	0	1	1	5
14. 高知中央保健所	0	0	0	1	0	5	0	0	1	7
15. 窪川保健所	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3
16. 阿蘇保健所	0	0	0	0	1	5	0	0	6	12
17. 気池保健所	0	0	0	0	0	2	0	2	2	6
18. 日南保健所	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3
19. 串間保健所	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	5	5	10	7	11	27	5	10	23	103

で常勤割合が中等度な市町村は窪川保健所管内に多かった。5職種割合が高く常勤割合が中等度もしくは高い市町村が多いのは山形保健所、白河保健所、御荘保健所、阿蘇保健所、菊池保健所であった(表7)。

#### 6. 各職種の稼働時間の出生数による単回帰分析

市町村の出生数に対する各職種の稼働時間の回帰式を表8に示した。

各職種の総稼働時間を目的変数とし出生数を説明変数にした回帰式をもとめると出生数が増えると稼働時間を多く確保しなければならない職種は保健婦、看護婦、母子推進員、事務職、医師の順であった。一方、この回帰式の相関係数が高い職種は保健婦、歯科医、歯科衛生士、栄養士、看護婦の順であった。

全稼働時間を目的変数とした場合の回帰式によると出生が100増えると年間678時間の稼働時間が必要となる。一方出生がほとんどなくても年間約1,800時間確保しておく必要があると言ふことになる。目的変数を常勤職員とした場合は出生が100増えると年間403時間の稼働時間が必要となる。

出生100当りの稼働時間と出生数の相関をみると保健婦のみで有意の負の相関が認められた(表9)。

#### 7. 保健所管内毎にまとめた市町村の母子保健稼働時間と保健所の稼働時間との関連

保健所の調査ができなかった春日部保健所管内を除く18保健所管内市町村のデータを管内単位にまとめた稼働時間と保健所の稼働時間の相関をみた。

18保健所管内で保健所の全稼働時間と管内市町村の全稼働時間の相関を分析すると、有意な関連は認められなかった。しかし、この中で保健所の全稼働時間が飛び抜けて大きかった菊池保健所と串間保健所を除いたデータで相関をみたところ有意の正の相関が認められた(表10、

図9)。また、保健所の常勤の職員の稼働時間が占める割合と市町村の常勤職員の稼働時間が占める割合の間には有意の負の相関が認められた。

#### IV. 考察

この研究では母子保健に関わる全職種の稼働時間の実態を常勤と非常勤に分けて明らかにした。保健婦に限っては母子保健の各事業の市町村と保健所の協力実態を明らかにした報告<sup>1)</sup>があるが稼働時間を数量として示し、しかも各職種の稼働実態を明らかにした本研究が初めてである。

母子保健のマンパワー確保を考える場合、本研究で明らかになったように、確かに保健婦が中心ではあるがその他の職種も考慮することが重要である。なぜなら保健婦の稼働状況だけでは市町村の母子保健活動を十分特徴づけられなかったからである。

市町村単位の母子保健稼働時間の特徴を明らかにするために、市町村規模の調整方法として出生100人当りの稼働時間をみたが、市町村によりかなりのばらつきが認められた。出生数が少ない市町村ほど単位出生当りの稼働時間は多くなる、すなわち出生100当りの稼働時間が出生数と負の相関関係にあると予想されたが、保健婦以外の全職種の稼働時間で有意な相関は認められなかった。保健婦の稼働時間との相関係数も $-0.26$ と弱いものであった。従って単位出生当りの母子保健稼働時間はあまり市町村規模には関係のないばらつきを持っていると言える。

さらに保健所の出生100当りの全稼働時間と管轄市町村の出生100当りの全稼働時間の相関をみると保健所の全稼働時間がとびぬけて大きい2保健所を除くと有意の正の相関が認められた。これは母子保健の稼働時間が全国各地でもほぼ一定に決っており、保健所と市町村の稼働時間は相互に補完しているとはいえず、むしろ市町村の稼働時間が多いところほど保健所の稼働時間も多い傾向があることがわかった。これは単

表7 保健所管内別に5職種（保健婦、事務職、医師、看護婦、母子推進委員）の稼働時間が全稼働時間のうちに占める割合と5職種のうち常勤職員の稼働時間が占める割合による市町村の分類

全稼働時間に占める 5職種の稼働時間	0～29%			30～49%			50%以上			市町村数 合計
	0-79	80-99	100%	0-79	80-99	100%	0-79	80-99	100%	
1. 山形保健所	0	1	0	0	1	0	0	3	0	5
2. 白河保健所	0	1	1	0	0	0	1	1	4	8
3. 小山保健所	0	0	0	1	0	0	1	2	0	4
4. 秩父保健所	1	0	0	1	0	1	2	1	3	9
5. 本庄保健所	0	1	0	0	1	0	1	2	1	6
6. 春日部保健所	1	0	0	0	1	0	1	0	1	4
7. 蕨保健所	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2
8. 川越保健所	1	3	0	1	0	1	0	1	1	8
9. 巻保健所	5	1	2	1	2	1	0	0	0	12
10. 武生保健所	0	1	0	1	0	1	0	1	0	4
11. 大津保健所	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
12. 吹田保健所	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2
13. 御荘保健所	0	0	0	1	1	1	0	2	1	5
14. 高知中央保健所	0	1	3	0	0	3	0	0	0	7
15. 窪川保健所	0	0	0	0	2	0	1	0	0	3
16. 阿蘇保健所	0	0	1	0	1	2	2	3	3	12
17. 菊池保健所	0	0	0	0	0	1	1	3	1	6
18. 日南保健所	0	0	0	0	0	0	1	1	1	3
19. 串間保健所	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
合計	8	10	9	7	11	10	11	20	17	103

表8 出生数と各職種稼働時間の関連を示した回帰式

総稼働時間	出生数 (X)	相関係数	t値
全職種	= 6.78 X + 1,795.6	0.80	13.57
常勤全職種	= 4.03 X + 1,165.7	0.75	11.33
保健婦	= 2.70 X + 620.3	0.85	15.96
看護婦	= 0.82 X + 227.5	0.65	8.54
母子推進委員	= 0.61 X + 245.9	0.29	3.08
事務職	= 0.50 X + 418.1	0.38	4.07
医師	= 0.50 X + 176.0	0.38	4.13
心理判定士	= 0.45 X - 76.9	0.55	6.54
歯科衛生士	= 0.40 X + 1.8	0.68	9.33
栄養士	= 0.25 X + 34.1	0.66	8.75
助産婦	= 0.15 X + 110.2	0.27	2.89
歯科医	= 0.10 X + 8.7	0.81	13.98

表9 出生100人当りの各職種稼働時間と出生数の関連を示した回帰式

出生100当り稼働時間	出生数 (X)	相関係数	t値
全職種	= -1.122 X + 3,027.3	-0.11	1.12
常勤全職種	= -0.940 X + 2,286.1	-0.09	0.95
保健婦	= -0.322 X + 970.6	-0.26	2.74 *
看護婦	= -0.134 X + 365.3	-0.07	0.67
母子推進委員	= -0.371 X + 748.5	-0.06	0.63
事務職	= -0.214 X + 517.7	-0.11	1.10
医師	= -0.046 X + 173.7	-0.15	1.53
心理判定士	= 0.014 X + 2.9	0.36	3.93 *
歯科衛生士	= -0.000 X + 41.0	-0.00	0.03
栄養士	= -0.007 X + 45.3	-0.08	0.85
助産婦	= -0.031 X + 96.9	-0.12	1.24
歯科医	= -0.006 X + 22.8	-0.17	1.76



表10. 種々の稼働時間と稼働時間比の保健所とその管内市町村との関連を示した回帰式

説明変数 (Y)	目的変数 (X)	回帰式	相関係数	t値
18管内保健所全稼働時間	市町村全稼働時間	$Y = 0.079 X + 429.0$	0.53	0.63
16管内保健所全稼働時間**	市町村全稼働時間	$Y = 0.195 X + 111.6$	0.59	2.73 *
保健所常勤職員稼働比	市町村常勤稼働比	$Y = -0.462 X + 110.4$	-0.48	2.18 *
保健所保健婦総稼働時間	市町村保健婦稼働	$Y = 0.294 X + 193.2$	0.18	0.74
保健所常勤職員稼働比	市町村常勤稼働比	$Y = 0.095 X + 350.7$	0.11	0.44
保健所保健婦稼働時間比	市町村保健婦稼働比	$Y = 0.378 X + 44.9$	0.32	0.20

16管内とは18の保健所管内から保健所の全稼働時間がとびはなれて大きい菊池保健所と串間保健所を除いたデータである。

\*  $p < 0.05$

保健所全稼働時間

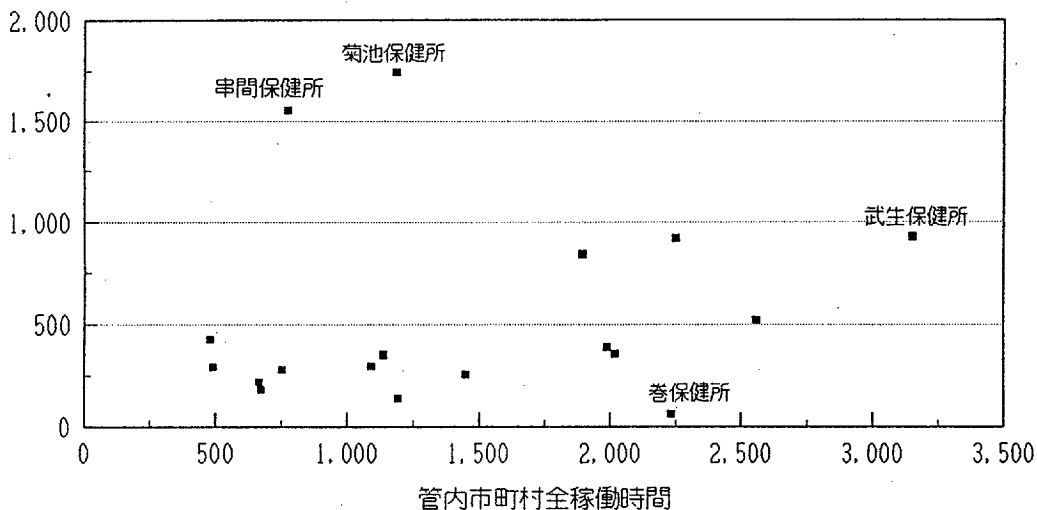


図9 保健所管内ごとにみた保健所全稼働時間と市町村全稼働時間との関連

位人口当りの保健婦訪問総件数が市町村保健婦と保健所保健婦の間で正の相関関係にあるという報告<sup>2)</sup>と類似した傾向を示した。

また、母子保健の全稼働時間に対する保健婦の稼働時間が占める割合は関連職種の中で最も高かった。出生数の少ない市町村ほどこの保健婦稼働時間が全稼働時間に占める割合が高くなると予想されたが、そのような傾向は認められなかった。

各職種の総稼働時間における常勤稼働時間の割合により市町村を分類すると職種により特徴的な分布を示した。なかでも栄養士のようにほとんど常勤稼働時間でまかなっている市町村とほとんど非常勤稼働時間でまかなっている市町村と2極に分かれるような職種が市町村ごとの母子保健活動の特徴をよく表現するものとして注目される。

以上を総括すると、単回帰式によって出生が100増えるといくら母子保健の全稼働時間および保健婦稼働時間を確保しないといけないかは算出でき妥当性も高いと考えられる。しかし、市町村単位の母子保健稼働実態を出生数、単位出生当りの稼働時間、常勤職員の稼働時間割合や地理的特徴などで分類することはできず、むしろ保健所管内ごとで各々一定の特徴をもつ傾向がありマンパワーの確保基準を全国一律に決定することは全稼働量や保健婦以外は困難であると言える。

従って、保健婦以外の職種に関してはどのような配分でどの程度増やせばよいかは一律には決められず、特に各保健所管内の状況にしたがって算出するべきだということになる。

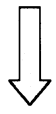
もちろん、以上の考察は現在の母子保健事業はすべて必要十分なものであると言うことを前提にしており、真の必要稼働時間を推定するには各母子保健事業の評価を行うことによる事業の整理および母子保健の活動目標を明確化とニーズ算定にもとづいた新しい事業の計画が必要である。

今回の研究で特に保健所管内単位で特色ある

各職種の稼働実態が明らかになったが、その活動の結果どのような成果の差が認められたのかが今後の課題となる。乳児死亡率等の母子保健指標が世界で最も低くなり、しかも地域差が認め難くなっている現在、母子保健活動の評価を行うことは大変難しく母子保健の評価指標を考え直す時期にきている<sup>3)</sup>とも言われており、現代の母子保健活動の目標の具体的な明確化と客観的な評価指標の考案が急務であると言える。

#### 文献

- 1) 須川豊ら：母子保健における保健婦活動の効率的展開に関する研究。厚生省心身障害研究平成3年度報告書。1991.
- 2) 西三郎：住民のニーズに応える保健婦活動。保健婦雑誌 47(2), 120-125, 1991.
- 3) 高野陽：母子保健活動の現状をどう評価していくとよいか。保健婦雑誌 45(6), 447-453, 1989.



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:母子保健に関わる各職種の年間稼働時間の市町村別特徴を明らかにし、各職種の単位出生数当りの稼働時間を明らかにするために全国24保健所管内の129市町村に対し母子保健に関係する各職種の年間稼働時間を常勤職員と臨時職員の別に聞くアンケート調査を行い、19保健所管内の103市町村から回答があり、以下のような結果が得られた。

- 1)各職種の総稼働時間における常勤稼働時間の割合により市町村を分類すると職種により特徴的な分布を示した。なかでも栄養士のようにほとんど常勤稼働時間でまかなっている市町村とほとんど非常勤稼働時間でまかなっている市町村と2極に分かれるような職種が市町村ごとの母子保健活動の特徴をよく表現するものとして注目される。
- 2)市町村規模の調整方法として出生100人当りの稼働時間をみたが、市町村によりかなりのばらつきが認められた。
- 3)保健所の出生100当りの全稼働時間と管轄市町村の出生100当りの全稼働時間の相関をみると保健所の全稼働時間がとびぬけて大きい2保健所を除くと有意の正の相関が認められた。これは市町村の稼働時間が多いところほど保健所の稼働時間も多い傾向があることを示している。
- 4)単回帰式によって出生が100増えるといくら母子保健の全稼働時間および保健婦稼働時間を確保しないといけないかは算出でき妥当性も高いと考えられた。しかし、市町村単位の母子保健稼働実態を出生数、単位出生当りの稼働時間、常勤職員の稼働時間割合や地理的特徴などで分類することはできず、むしろ保健所管内ごとで各々一定の特徴をもつ傾向がありマンパワーの確保基準を全国一律に決定することは全稼働量や保健婦以外は困難であると考えられた。